

平成25年度学校評価【学校自己評価と学校関係者評価】

1 生徒の学校生活について

【学校自己評価】

市内で最も生徒数の多い学校ではあるが、年々生徒数は減少している。生徒たちにとっては、学校生活を送る環境としてはたいへん恵まれていると言えよう。ニュータウンにありながら、自然を身近に感じることができ、敷地面積も広く、ゆったりとした造りの校舎の中で安全に学校生活を送っている。一時期千名を超えた生徒数も現在は七百名近くになり、教室の使用状況や行事への取り組みにおいても不便さが解消されつつある。生徒たちは規模の大きい学校のメリットを享受して楽しく学校生活を送っており、保護者にも生徒の様子からその様に受け取られていると思われる。部活動においても、他校より部活数が多く生徒たちにとって選択の幅も広い。一方で、様々な事情をもつ生徒に対するきめ細かな指導は今後も継続していかなければならない。

【学校関係者評価】

部活動に対する生徒・保護者の関心が高い。部活動に一生懸命取り組む生徒は規範意識がしっかりとしている。現在ある部活動を充実させていく方向で考えていくことが大切である。様々な事情を持つ生徒への対応は、学校だけでなく関係機関とも連携をとりながら取り組んでいくことが重要である。

2 行事の内容・取り組みについて

【学校自己評価】

新学習指導要領が完全実施され、授業時間の確保が学校現場の課題となっている。そのため、学校行事の精選がなされ、現在のような形で実施している。かつては学校行事の種類も多く、その取り組みにも十分な時間を割くことができたが、今では限られた行事に最低限の時間を割り当てて実施している。本校の学校行事は多くの学校で実施している行事が主体で、アンケート結果からも生徒・保護者の理解が得られていると考える。内容については、今後も多様な意見を集約し、生徒たちにとって有意義なより充実したものになるよう検討していきたい。今年度は、体育大会が雨天のため平日開催となり、楽しみにされていた保護者の方々にご迷惑をおかけすることになったが、頑張って練習に取り組んできた生徒たちがその成果を十分に発揮できる状況を最優先させて天候の良い日に実施した。

【学校関係者評価】

学校行事は、生徒の健康や安全面にも考慮して実施することが大切である。修学旅行の取扱業者の決定も相見積もりをとって適切に進められている。今年度の体育大会の日程変更はいたしかたなく、種目なども安全面から考えると妥当である。

3 学習指導について

【学校自己評価】

学習に対する生徒たちの意欲は高く、授業に対しても落ち着いた雰囲気の中で真剣に取り組んでいる。保護者も教育への関心が高く、特に学力の向上への願いが強い。今回のアンケート調査で最も評価が低かったのが学習指導への取り組みで、学校が確かな学力をつけるわかりやすい授業に積極的に取り組んでいると思われたのは14%、あまり思わないとの回答が20%にのぼっている。長期休業中や定期考査前の学習相談等で個別に学力補充への取り組みも行っているが、各教師がより一層指導の工夫・改善に努めると共に学校全体で教科指導の向上を図る研修に取り組んでいきたい。

【学校関係者評価】

学習面に対して関心の高い地域である。学校教育はもちろんであるが、家庭での学習への取り組みも大切である。

4 いじめ・暴力への取り組みについて

【学校自己評価】

いじめ防止対策推進法が昨年9月に施行され、この法律に基づいて三田市がいじめ防止基本方針を策定した。現在市内の各中学校では、学校いじめ防止基本方針の策定に向けて取り組んでいる。いじめの基本認識として、いじめはどの子にも、どの学校にも起こり得るものであることを前提に、いじめの防止、いじめの早期発見、いじめの対処の3項目を柱に本校のいじめ防止基本方針を策定していきたい。三田市では昨年より各校の生徒会を中心としたいじめ撲滅運動を推進している。本校でも、生徒の自主性・主体性の成長を促す指導を心がけることで、活力に満ちた楽しい学校づくりに取り組みたいと考える。アンケート調査では、学校でいじめがあるので心配されている保護者の方もおられるが、いじめアンケートの実施や教育相談の時間を定期的に設ける等の取り組みを通して、いじめの早期発見・対応に努めている。

【学校関係者評価】

インターネットや携帯電話を通じて犯罪に巻き込まれる事案が増えている。学校でもチェック態勢ができていないが、更に職員研修や保護者への啓発の機会を増やして欲しい。犯罪に巻き込まれないよう情報管理、使い方の徹底を望む。

5 自主性・主体性を育てる取り組みについて

【学校自己評価】

本校の生徒たちは、基本的な生活習慣もほぼ確立し、学習やスポーツに意欲的に取り組んでいる。知識も豊富で技能的にも優れている面が多い。幼少期より家庭生活の中で愛情に包まれ大切に育てられ、小学校教育の中で育まれてきたものだと思う。こうした能力を活かす場を、生徒自ら自主的・主体的に創造していくことが中学校時代だと考える。周囲から支えられていた手を少しずつ離し、自らの足でしっかりと歩み始めなければならない。学校は個々の生徒の成長に即して、日々の教育活動の中でその場を提供する必要がある。アンケート調査においては、その場が十分に取れていないと思われる保護者が、23%にのぼっている。自主性・主体性を育てるためには、教師も生徒の判断にゆだねる場面を作り出さなければならないが、多様な捉え方がなされる現状において危惧される面も多く、生徒の安全や教育環境の維持等の課題を克服していかなければならない。

【学校関係者評価】

保護者の評価が低い。中学生になると自分で判断しなければならない。学校と家庭が連携して、生徒の自主性を育てていかなければならない。

6 あいさつができ、礼儀正しい生徒の育成について

【学校自己評価】

アンケート調査では、生徒と教師から十分に取組んでいないという評価がそれぞれ25%と31%であった。保護者の意見からもそう感じるという声があった。部活動をしている場での生徒は元気なあいさつができているが、個々の場面になるとあいさつができないということがある。朝の登校時におけるあいさつも元気に欠ける面が感じられる。あいさつの大切さは生徒集会や各学級の指導においても繰り返し話しているが、学校の場だけでなく、家庭や地域と協力し、学校を取り巻く環境の中で、あいさつができる生徒を育てていかなければならないと考える。

【学校関係者評価】

あいさつができないのは、成長と共に恥ずかしいという気持ちが強くなるのではないかとおとなしい、目立つことを避ける、一歩下がる傾向の生徒が増えてきている。トライやる・ウィークなどの体験を通して学ばせていくとよい。